

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202899
法人名	株式会社 TSヘルスケアネットワーク
事業所名	グループホーム ら・そしあ
所在地	札幌市北区新川1条6丁目3番3号 (電話) 011-768-6119

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年3月8日

【情報提供票より】(21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	3月	20日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤	0人, 常勤換算 13.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000~25,500 円	
敷金	(有) 60,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要(2月 8日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.4歳	最低	71歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	禎心会病院・ドゥケア歯科矯正歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営法人は禎心会グループの一つとして存在し、幹線道路や大型スーパー、カラオケ、温泉施設などにも程近い場所に位置しています。利便性の良い立地であり、1階はデイサービス、2階・3階が事業所となっています。触れることによって利用者の不安や痛みを軽減するタクティールケアにいち早く取り組むなど、穏やかな生活を支えるための研鑽をたゆみなく行い、職員は、利用者への視線を低くして心で会話をする事にも意識を持ちながら日々の支援に取り組んでいます。利用者のニーズに対し柔軟に対応する多機能支援や改善計画シート活用した質向上に取り組む姿勢、詳細な個別記録や美味しい食事の提供についても特徴の一つとなっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の結果を受け、改善計画シートを活用しながら改善計画を立て、計画の評価を行っています。外部評価で取り組みを期待された項目だけではなく、事業所で更に質を高めるという視点で挙げられた項目も盛り込まれており、意欲的に取り組んでいます。また、外部評価について運営推進会議で取上げ、「鍵を掛けないケアの実践」について、参加者からの意見を受け、様々な角度から検討しながら現在も継続して改善の取り組みを行っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回評価の結果と改善状況を確認し、日々のケアを振り返りながら全員が自己評価に取り組んでいます。提出された結果を管理者と計画作成者がユニットごとにまとめています。ユニットごとの状況や課題、強みを把握し、外部評価とあわせて改善計画に繋げることになっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに定期的に開催されています。家族、地域、行政など多様なメンバーを擁し、それぞれの立場から意見を話し合っています。専門的な見地からのアドバイスや情報を得る場として、また、事業所の日ごろの運営状況を伝え、助言を受けるなど、事業所のモニター役として活用しています。運営推進会議の結果は事業所で検討し、利用者の生活の向上のための取り組みにつなげています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の意見を内部・外部の相談窓口や意見箱などいろいろな方法で受け付けています。家族の来訪時や電話の際に、利用者の生活の様子などを伝え、希望を受けたり、意向を引き出すように心がけています。外出行事の実施やケアの改善など、収集した意見等は職員が共有し、検討しながら改善に結び付けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、利用者と一緒に参加できる行事への参加や、新年恒例会や総会などに参加しています。事業所への理解を深めてもらえるよう地道な働きかけを行い、避難訓練へ5名から10名の地域からの参加者を迎え、非常災害時の協力関係の構築にも力を入れています。併設のデイサービスの利用者が遊びに来るなど、地域との交流を意識しています。地域貢献など地域でどのような役割を果たしていくかを併設施設と話し合っています。

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の取り組みへの期待を受け、地域密着型サービスとして、地域の中で利用者を支えていく視点の重要性を学び、得られた理解や事業所としての思いを理念の策定に活かしています。利用者が地域で暮らしを継続し、交流していくという姿勢を事業所の理念に加えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見直した理念を事業所に掲示しています。変更後間もないため、理念の共有は今後会議や研修などの機会を捉えて行う予定となっています。また、事業所として理念の実践に取り組むとともに運営推進会議で取り上げ、家族や地域にも事業所の姿勢を示していく予定となっています。	○	事業所が目指すケアを実現するためには、理念を職員が共有し、一つひとつの介護に浸透させていくことが大切となります。今まで培ってきた理念に地域との関わりが加わることによって、利用者の生活がより豊かになるような具体的な取り組みに結びつくよう、理念を共有する機会や仕組みの整備を期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の清掃など利用者と参加できる行事と一緒に参加したり、新年恒例会や総会などで事業所の理解を促しています。地道な働きかけを継続して行い、避難訓練に地域住民の5名から10名の参加を得るなど、地域の一員として認知され、交流や連携の促進に取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の結果を参考にし、成長を確認したり、更に取り組むべき課題を明確にしながら、全員が個別に自己評価に取り組んでいます。ユニットごとに結果を集約し、それぞれの自己評価を作成しています。評価に取り組む中で、自分達のケアの強みも理解し、改善に向けて話し合いをしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的実施し、利用者、利用者家族代表、地域包括支援センター、地域住民、事業所職員など、様々な立場から意見を出し合い事業所のサービスの向上に活用しています。外部評価結果や利用者と同じ食事を食べたりと、事業所のモニター役として改善の過程を共有し、フィードバックを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市の担当部署や包括支援センターと、事業所の状況の報告と介護保険の変更点や留意事項等についての連携を行っています。区役所の保健師に、専門的な相談を行ったり北区のグループホーム管理者会議の中心的な役割を担っているため、行政からの情報の収集と研修などの打ち合わせを行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化や通院など、体調や生活の様子に変化があった場合は随時の連絡を行うと共に、毎月、「ら・そしあだより」と利用者の写真や、職員が利用者の個別の生活の様子を書き添えて発送しています。金銭管理を行っている利用者は少なく、管理している場合は毎月収支の報告を行っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には利用者の生活の様子を詳しく伝え、家族の言葉の中から希望等を汲み取るようにしています。外部と事業所の相談窓口を示し、意見箱の設置や運営推進会議など様々な方法で意見を受け止め、職員で共有と検討を行い、日ごろのケアや事業所の運営に活用しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は馴染みの関係が利用者の安心に繋がることを理解し、職員の異動を最小限に抑えています。また、職員の話聞く機会や職員同士のチームワークを大切にユニットごとの基盤を作ることで離職を抑えるようにしています。新たな職員が入職する場合は、職員が加わることを利用者が理解しやすい形で伝えています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は、テーマや職員の経験年数別に立て、外部研修の学びを職員が共有するなど、全体の向上にも配慮しています。日常の業務を通じて理念を意識したケアの学び合いはもちろん、今後は事例検討を行うなど職員自身が考え、ケアに結びつける力を養成する職員の主体的な取り組みも予定されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者会議や他団体の職員向け研修に参加し、交流や研修を行っています。他の事業所の職員の訪問を受け入れたり見学に出かけるなど、機会を捉えて交流を行い、サービスの向上を含め事業所の活性化を図ると共に、職員の知識や資質の向上につなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前から、家族や本人に見学を勧め、事業所の雰囲気や職員がどのように利用者と接しているのかなどを実際に見て、感じてもらっています。本人を訪問し、事業所の説明を十分に行うと共に暮らし方の希望や、生活歴等の情報を収集し、安心して利用開始できるよう職員と共に検討しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や能力を考慮し、洗濯物をたたんだり下膳や食器拭きをお願いし、職員は感謝の言葉を伝えています。利用者から地方独特の調理の方法や思い出を聞き、職員が伝統的な慣習や歴史、価値観などを学んでいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所ではタクティール・ケアに取り組み、職員と利用者が1対1で触れ合い、お互いにリラックスした時間を作ることで、信頼関係作りや意向の把握の機会としても活用しています。日常の場面を含め、職員それぞれの気づきを記録し、共有することで利用者の理解や介護計画の作成にも役立てています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用した各種書式や生活歴、職員の気づきを交え、本人らしい生活のあり方を意識しながら介護計画を作成しています。ケース記録を要約することで新たな気づきや細かな情報収集につなげ、職員で検討しています。利用者や家族の希望を大切にしながら利用者の状況に合った計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議を2ヶ月ごとに、モニタリングを3ヶ月おきに行い、介護計画の見直しにつなげています。生活記録シートなどの個別記録を活用し、体調の変化などを読み取っています。必要な場合には随時、医療や関係機関からのアドバイスを盛り込み利用者や家族の意見や希望を交えて計画を見直しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望を受け、買い物や通院の支援を行っています。外出行事などにも積極的に取り組み、デイサービスの夏祭りに出かけたり、家族と共に公園で過ごす機会を設けるなど、利用者の喜びや楽しみにも繋がるよう支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の入居前からの主治医の通院の支援や、受診結果の家族への連絡と、事業所内での共有を行っています。協力医療機関からの月2回の往診などを含め、医療の記録を管理し併設施設の看護師による日常的な健康管理と合わせて適切な医療の受診に結び付けています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化と終末期についての指針の説明を行い、利用者や家族から同意を得ています。医療的なケアの希望を把握し、医師を交えて話し合うなど、その時々に応じて正確な情報を提供し、共に考えています。今後は早い段階から意向の汲み取りの機会を充実させ、職員の資質の向上に取り組むこととなっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議などの際に、尊厳や信頼関係を築き、利用者に合わせて対応が出来ているかを検討しています。職員は日ごろからどんな対応や言葉かけを行うか利用者の立場に立って考え、意識してケアに当たっています。個人記録などの書類も、目に触れないように事務室で保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の生活の予定はありますが、一人ひとりの利用者の気持ちや習慣、体調に合わせて日々の支援を行っています。信仰や晩酌など、信条や生活習慣を把握し、介護計画に盛り込みながら支援しています。短歌や貼り絵などの趣味の作品は居間に飾り、皆で楽しんでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩りや季節感を取り入れ、家庭的な料理を献立の基本としています。利用者の希望や味付けのアドバイスなどを得ながら、利用者と一緒にできることを一緒に行い食事を行っています。時には外食で出かけたりと食事の内容や場面に变化を付けながら食べる喜びを支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に、利用者の血圧や体温を把握し、体調にも配慮しながら入浴を行っています。入浴することにより、さっぱりと気持ちよく、活動的になるため、平均して週3回程度の入浴を楽しんでいます。入浴の拒否がある場合も、声を掛けるタイミングを見計らい気持ちを大切にしながら勧めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の入居前からの習慣や趣味を大切に、対応を行っています。利用者が好きだったことなどを把握し、美術館の鑑賞を提案したり、外部のダンス教室に通ったりと、社会とのつながりやそれまでの人間関係の継続にも配慮しながら張りのある生活を支えています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調を考慮し、閉じこもりがちなならないように散歩などに出かけています。月に2回程度はドライブを兼ねて外出し、季節を感じられる場所に出かけたり行楽を楽しんでいます。観光施設への訪問など、外出行事の際にビデオを撮影することもあり、楽しい思い出を記録しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の立地が幹線道路と琴似川に近いので、利用者の安全を第一に考えユニットごとの入り口で施錠を行っています。利用者や家族への説明や運営推進会議での検討とともに、職員は鍵をかけることの弊害を理解し、外出の意向には一緒に散歩にでかけるなどの対応も行なっています。	○	事業所として、時間帯や職員の配置状況等のリスク分析を行い、時間帯を検討しながら徐々に鍵を掛けない時間帯を増やしていく具体的な取り組みが予定されています。職員間の連携やエントランスを共有する併設事業所の協力なども得ながら利用者の自由な生活を支える仕組み作りを期待します。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所が建物の2階と3階に位置するため、火災に対する訓練は屋間や実際に夜間に行うなど職員が緊急時にとっさの行動ができるように意識して行われています。また、利用者や地域住民の訓練参加や併設施設との連携も図られています。	○	今後は、火災を想定した訓練だけではなく、様々な災害に対応出来るように事業所としての課題を明らかにし、備えていくことを期待します。また、万が一被災した場合の利用者の避難先での安全確保や必要な備蓄についても検討し、法人内や関係機関との更なる連携強化にも期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設デイサービスの栄養士が作成した献立を参考にしながらバランスの良い食事を心がけています。利用者の嚥下能力やその日の体調なども考え、食材の切り方や柔らかさ、とろみを付けるなど細かな対応を行っています。食事の摂取量と水分摂取量の記録を行い、水分などが不足しないように配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にしたり飾り付けや利用者の趣味の作品などを飾り、家庭的な雰囲気になるように工夫しています。食卓やソファ、畳の小上がりのスペースなど、利用者同士と一緒に過ごしたり、時には一人で過ごしたりと気分に合わせて寛げるようにしています。また、利用者が自立した生活を送れるよう、手すりや、車椅子でも使いやすい洗面台などが設置されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮し、居室は利用者が内側から鍵を掛けることも可能となっています。使い慣れた家具を持ち込み、利用者の入居前の生活状況や習慣も検討しながら利用者の好みを活かして整えられています。状況に応じて、混乱を避けるための支援やアドバイスなども行って安全に過ごせるようにしています。		